

1. リスク診断

◆リスクの起源

【risk】はありふれた英単語の一つ。

古いイタリア語の「risco」⇒フランス語「risque」⇒17世紀に英語になった。

【危険】を意味する「danger」英国13世紀

【risk】の語義は時代とともに追加されていった。

- ①災害、危険、危険に晒(サラ)されること(1661年)
- ②商業上の損失、とりわけ保険のかかった商品等に関する危険(1719年)
- ③不測の損害に対する手当て(1849年)
- ④阪神・淡路大震災時に一般用語として認識される(1995年)
- ⑤JIS規格に指針が導入(JIS Q2001) (2001年)

リスク診断報告書

～安心・安全な経営を実現するために～

総合リスク評価	P.1
財務リスク評価	P.2
経営環境評価	P.3
マネジメント評価	P.4
リスク管理評価	P.5
業務リスク評価	P.6

会社の経営の為に！

◆リスク診断 報告書

◆報告書作成の為の打合せ時間
約 2時間

◆必要な資料(お預かりする書類)

- ①決算書(貸借対照表・損益計算書)
- ②生命保険 ②損害保険 ③共済等の写し
- ③就業規則等の規則類
- ④会社案内等
- ⑤その他(必要時)

総合リスク評価

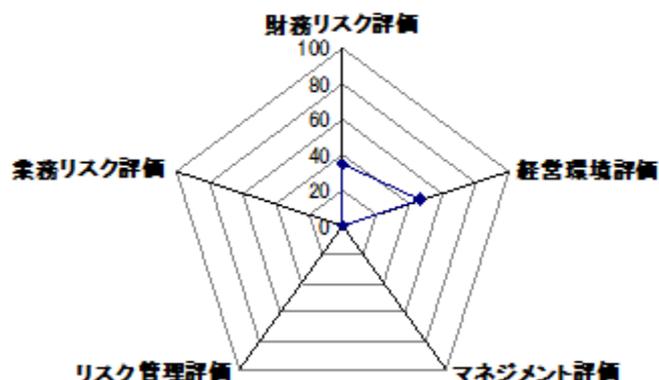
リスク格付け **D** 総合リスク評価 **12.2** / 100.0点

組織が脆弱で、非常に危険な経営状況にある事が想定されます。

カテゴリ別評価

No.	カテゴリ	得点	格付け
1	財務リスク評価	5.2 / 15.0点	C
2	経営環境評価	7.0 / 15.0点	B
3	マネジメント評価	0.0 / 15.0点	D
4	リスク管理評価	0.0 / 15.0点	D
5	業務リスク評価	0.0 / 40.0点	D

カテゴリ別リスク対応度



総合得点

122点



総合リスク
格付け
基準評価点

A+	80点以上
A	60点以上
B	40点以上
C	20点以上
D	20点未満

項目別評価

No.	カテゴリ	項目	得点
1	財務リスク評価	自己資本比率	1.6 / 20点
		正味余力	0.4 / 20点
		金融余力	0.0 / 1.0点
		資金調達余力	1.0 / 1.0点
		売上高経常利益率	0.4 / 20点
		経常利益額	0.4 / 20点
		期間利益傾向	0.6 / 1.0点
		売上高規模	0.4 / 1.0点
		売上高増加率	0.4 / 1.0点
		債務償還年数	0.0 / 1.0点
		インタレスト・ガバレッジ・レシオ	0.0 / 1.0点
			小計
2	経営環境評価	環境変化	0.0 / 3.0点
		感応度	0.0 / 3.0点
		競争環境	0.0 / 3.0点
		経営資源	0.0 / 3.0点
		事業承継	0.0 / 3.0点
	小計	0.0 / 15.0点	
3	マネジメント評価	経営理念・ビジョン	0.0 / 3.0点
		経営計画	0.0 / 3.0点
		人材活用	0.0 / 3.0点
		就業規則	0.0 / 3.0点
	小計	0.0 / 15.0点	
4	リスク管理評価	リスク管理規程	0.0 / 3.0点
		リスク管理体制	0.0 / 3.0点
		教育・研修	0.0 / 3.0点
		保険の有効活用	0.0 / 3.0点
		BCPの作成	0.0 / 3.0点
	小計	0.0 / 15.0点	
5	業務リスク評価	小計	0.0 / 40.0点
	総合得点(総合計)	12.2 / 100.0点	

5 業務リスク評価

業務リスク評価
(合計)

0.0 / 40.0点

格付け

D

ポジション	業務リスク項目数	得点
I	0 項目	0.0 点
II	0 項目	0.0 点
III	0 項目	0.0 点
IV	0 項目	0.0 点
	合計	0.0 点

リスクマトリクス (任意入力基準)

(結果)				
リスク境界値 発生に至る懸念値 (千円)	II		I	
事業危険値 [営が厳しくなる基準] (千円)				
保有限度値 額を受け入れる限界 (千円)	IV		III	
	20年超	10年超20年以内	3年超10年以内	3年以内

(起りやすさ)

業務リスク評価

0.0点

0.0 10.0 20.0 30.0 40.0

業務リスク格付け
基準評価点

A+	33点以上
A	25点以上
B	17点以上
C	9点以上
D	9点未満

リスク項目別対応表

【対応表】 ○:十分出来ている △:不十分 ×:出来ていない

業務リスク項目	コントロール	ファイナンス	得点
① 地震			0.0 点
② 火災・爆発			0.0 点
③ 労災事故(メンタル含む)			0.0 点
④ 自動車事故			0.0 点
⑤ 経営者等の死亡・退職			0.0 点
⑥ 天災(風災・水災)			0.0 点
⑦ 大口取引の停止・倒産等			0.0 点
⑧ 使用者賠償責任			0.0 点
⑨ コンプライアンス違反			0.0 点
⑩ 貸倒			0.0 点
⑪ 個人情報漏洩			0.0 点
⑫ 退職金等の支払い			0.0 点
⑬ システム障害			0.0 点
⑭ 雇用トラブル			0.0 点
⑮ 契約不履行			0.0 点
⑯ 施設に関わる賠償責任			0.0 点
⑰ 知的財産権の侵害			0.0 点
⑱ 環境汚染			0.0 点
⑲ リコール			0.0 点
⑳ PL事故			0.0 点
合計			0.0 / 40.0点

2. リスクサーベイ(調査)診断

リスクサーベイ(リスク調査)とは

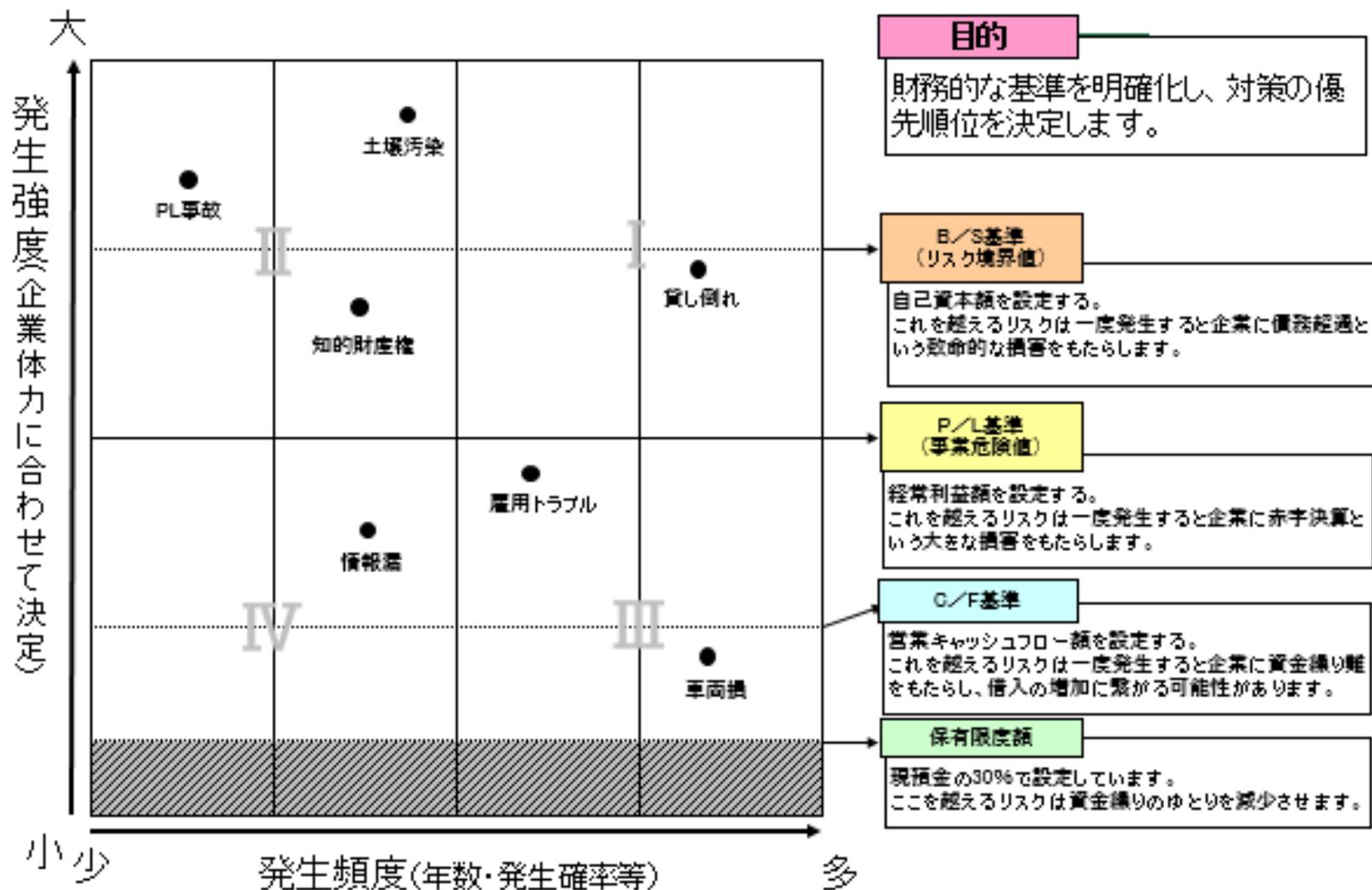
企業のリスクを、調査し、企業として、リスクの『見える化』を進め、リスク対策の優先順位を決め、リスクに強い企業を目指すことを目的としている。

< リスク対策のフレームワーク >

※リスク教育 リスク回避 リスク低減 リスク軽減 リスク統合 リスク容認	緊急時対応 事後対策	積立て 引当金(有税・無税) 経常費 キャプティブ 借入・資産処分	保険 以外	保険
事前対策	事後対策	リスク保有	リスク移転	
リスクを技術的に制御・予防		リスクに対する財務的に対策 リスクファイナンス手法		
リスク管理システム				

	項目	内容(対象)
1	リスクサーベイ説明	社長(幹部)
2	ヒアリング(情報収集)	社長(幹部) ・リスク影響度チェックシート
3	資料入手 リスク項目の抽出	・リスク項目の抽出 ・貴社が抽出したリスク項目30 【見える化】 ・リスク危険度と保険カバー度合い
4	リスクコンサルティング & 組織コミュニケーション	・リスクコンサルティング・チェックシート ・リスク不安度・チェックシート ・経営トップヒアリング ・経営環境リスク評価 ・その他
5	リスク評価格付け	・リスクコンサルティング評価 ・財務リスク評価 ・その他
6	財務リスクの評価	・リスク境界値、事業危険値、株主資本比率、経営安定度、流動比率、その他
7	リスク項目別評価	・リスク評価危険度、リスク境界値、事業危険値、キャッシュフロー値、保有限度値
8	調査結果の報告	・貴社のリスク項目別調整評価 ・貴社調査結果のまとめ及びコメント ・リスク項目対策優先度上項目の対策ポイント

リスクマトリックスの作成



マトリクスまとめ

株式会社〇〇〇〇のリスクマトリクス

	40	40	43	43	44	44	58	58	61	61	62	62	86	86	89	89	90	90	95	95	98	98	99	99
	40	40	43	43	44	44	58	58	61	61	62	62	86	86	89	89	90	90	95	95	98	98	99	99
	38	38	41	41	42	42	56	56	59	59	60	60	84	84	87	87	88	88	93	93	96	96	97	97
	38	38	41	41	42	42	56	56	59	59	60	60	84	84	87	87	88	88	93	93	96	96	97	97
	36	36	37	37	39	39	54	54	55	55	57	57	82	82	83	83	85	85	91	91	92	92	94	94
	36	36	37	37	39	39	54	54	55	55	57	57	82	82	83	83	85	85	91	91	92	92	94	94
B/S	17	17	18	18	19	19	31	31	34	34	35	35	67	67	70	70	71	71	76	76	79	79	80	80
	17	17	18	18	19	19	31	31	34	34	35	35	67	67	70	70	71	71	76	76	79	79	80	80
	16	16	17	17	18	18	29	29	32	32	33	33	65	65	68	68	69	69	74	74	77	77	78	78
	16	16	17	17	18	18	29	29	32	32	33	33	65	65	68	68	69	69	74	74	77	77	78	78
	15	15	15	15	16	16	27	27	28	28	30	30	63	63	64	64	66	66	72	72	73	73	75	75
	15	15	15	15	16	16	27	27	28	28	30	30	63	63	64	64	66	66	72	72	73	73	75	75
P/L	10	10	11	11	12	12	15	15	15	15	15	15	22	22	25	25	26	26	49	49	52	52	53	53
	10	10	11	11	12	12	15	15	15	15	15	15	22	22	25	25	26	26	49	49	52	52	53	53
	9	9	10	10	11	11	14	14	14	14	15	15	21	21	23	23	24	24	47	47	50	50	51	51
	9	9	10	10	11	11	14	14	14	14	15	15	21	21	23	23	24	24	47	47	50	50	51	51

リスク評価危険

30項目リスク単純積算/15

リスク境界値

事業危険値

I = 項目

II = 項目

III = 項目

IV = 項目

3. 事業継続(BCP)診断

1.地震リスク対策チェックリスト

	チェック項目	はい	いいえ
1	事業所内では、地震発生時の情報は、いち早く社内に流せますか(緊急地震速報) * 1秒が人命を左右します。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2	事業所内での避難方法(避難ルート)や事業所から屋外への安全な避難方法(避難ルート) 一時集合場所 最終避難場所を従業員全員が認識していますか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3	緊急事態発災時(地震等)仕組み(指示・命令・指揮者)決めてありますか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4	社長や幹部が被災時、連絡が取れない場合でも担当者自ら重要な判断や決断をすることができますか？ リスク感性が従業員にありますか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5	夜間や休日に地震が発生した場合 24時間以内に従業員(パートアルバイト含む)の安否確認を完了することができますか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6	事業所内で被害状況を確認する順序や危険箇所・危険物がある場合の二次災害の防止方法について周知されていますか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7	自社の拠点や協力会社の被災状況について収集するための手段や方法について決められていますか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

社名		確認日		
BCP取組状況チェックリスト【入門時】				
大項目	チェック項目	はい	進行中	いいえ
		2	1	0
人的資源	1 緊急事態発生時に 支援が到着するまでの従業員の安全や健康を確保するための災害対応計画を作成していますか？			
	2 災害が勤務時間中に起こった場合 勤務時間外に起こった場合 あなたの会社は従業員と連絡を取り合うことはできますか？			
	3 緊急時に必要な従業員が出社できない場合に 代行できる従業員を育成していますか？			
	4 地震発災時、従業員の安全確保の仕組みはありますか？			
	5 定期的に避難訓練や初期救急 心肺蘇生法の訓練を実施していますか？			
物的資源(モノ)	6 あなたの会社のビルや工場は地震や風水害に耐えることができますか？そしてビル内や工場内にある設備は地震や風水害から保護されますか？			
	7 あなたの会社周辺の地震や風水害の被害に関する危険性を把握していますか？			
	8 あなたの会社の設備の流動を管理し 目録を更新していますか？			
	9 あなたの会社の工場が操業できなくなる 仕入先からの原材料の納品がストップする等の場合に備えて 代替で生産や調達する手段を準備していますか？			
物的資(金)	10 1週間又は1ヶ月程度 事業を中断した際の損失を把握していますか？			
	11 あなたは 災害後に事業を再開させる上で現在の保険の損害補償範囲が適切であるかどうかを決定するために保険の専門家と相談しましたか？			
	12 事前の災害対策や被災時復旧を目的とした融資制度を把握していますか？			
	13 1ヶ月分程度の事業運転資金に相当する額のキャッシュフローを確保していますか？			

4. 生産設備診断(地震リスク)

設備の耐震診断のお勧め



平成28年熊本地震後の発生研の状況

生産設備の『耐震診断』『耐震補強』『維持管理』が必要

■ 南海トラフ地震で犠牲者最悪30万人

災害リスク対策として、事業継続計画（BCP）の作成、運用は不可欠です。「重要業務」を遂行するためには、経営資源への被害の最小化が必要となります。

- ①人
- ②モノ（建物、機械及び装置、工具・器具・備品・家具類）
- ③システム・データ
- ④カネ
- ⑤情報

当然、インフラへの被害の最小化も必要です。

◆復旧目標達成を達成するための対応策の検討・実施を進めるうえで、
生産設備の「耐震診断」「耐震補強」「維持管理」が考えられます。



生産設備の診断要領

耐震診断の設定に基づき、生産設備の耐震診断を実施し、リスクの洗い出しを行い、設備耐震診断グレードで評価した結果を、調査範囲の代表事例としてご報告致します。

確認された場合、現場にて対策案をリコメンド致します。

設備耐震診断評価グレード		
・A		: 二重以上の安全性が考慮されている設備。
・B		: 安全性が考慮されている設備。
・C		: 安全性に問題がある設備。
・C-		: 安全性に問題があり、対策優先順位の高い設備。
・D		: 非常に危険な状態の設備。

生産設備の耐震診断で判断基準となる設備耐震診断グレード評価の具体例を示す。



●Aグレードは例えば、道路に設置されている信号設備等のように十分な強度を持ったボルトとダブルナットで強固な固定が施工されている設備等。



●Bグレードは例えば、一般設備である自動販売機がアンカーボルトと金具で床面と固定され設置されている設備等。



●Cグレードは例えば、想定される地震における挙動により転倒など何らかの被害発生の可能性が高いと判断される設備等。



●C-グレードは例えば、Cグレードと判断された設備の内、耐震対策を実施する場合優先順位の高い設備等。



●Dグレードは例えば、Cグレードと判断された設備の内、想定される地震における挙動により、火災・爆発及び人的災害など重大被害発生の可能性が高いと判断された設備。

危険度評価A・Bは代表事例のみを評価記録いたします。

耐震診断結果		
・耐震診断事例総数		事例総数 98
・危険度評価A		事例数 1
・危険度評価B		事例数 2
・危険度評価C		事例数 82
・危険度評価C-		事例数 13
・危険度評価D		事例数 0

耐震診断を実施し、耐震性の危険度評価を行い報告致します。

耐震診断調査スケジュール

- 耐震診断調査対象は、生産設備を中心に調査致します。
- ユーティリティ設備なども調査致します。
- 所要時間は、概ね以下の計画で調査致します。
- 以下の所要時間で、概ね工場内にある異なる生産設備を100アイテム調査が行えます。(同種類の設備は省略いたします)

耐震診断調査対象(案)		所要時間
1日目事前打合せ	事前打合せ	9:00~9:30 (30分)
ABC工場 ABC棟	生産設備、付帯設備、その他	9:30~12:00 (150分)
昼食		12:00~13:00 (60分)
その他ユーティリティ設備	自動倉庫、製品保管棚、サーバー室、受電設備、空調機械、ダクト、配管、ガスボンベなど	13:00~16:00 (180分)
調査結果まとめ		16:00~16:30 (30分)
仮報告会	調査結果仮報告、質疑応答	16:30~17:00 (30分)

- 仮報告会で使用するプロジェクターの借用をお願い致します。
- 2日目以降は同様のスケジュールで行います。

5. 工場内の什器・設備・備品対策

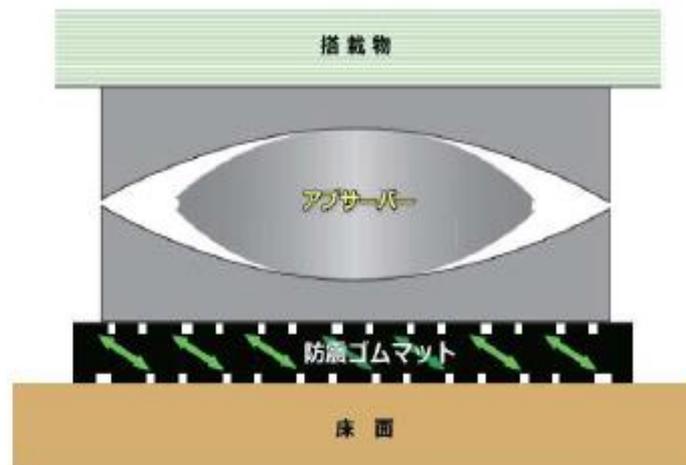
アブサーバーの製品仕様と設置仕様(金澤製作所)

直下型地震にも対応

アブサーバーと床面の間に特殊な吸盤型ゴムマットを挿入することにより、縦・横の振動を反対方向に戻す力が働き、より防振効果を高めます。

このゴムマット上の大小異なる特殊な突起面が、より多くの振動をひろい、安定した防振効果を発揮します。

また、床面遊歩がなくなるので、アブサーバーと床面を安定させて設置することができます。



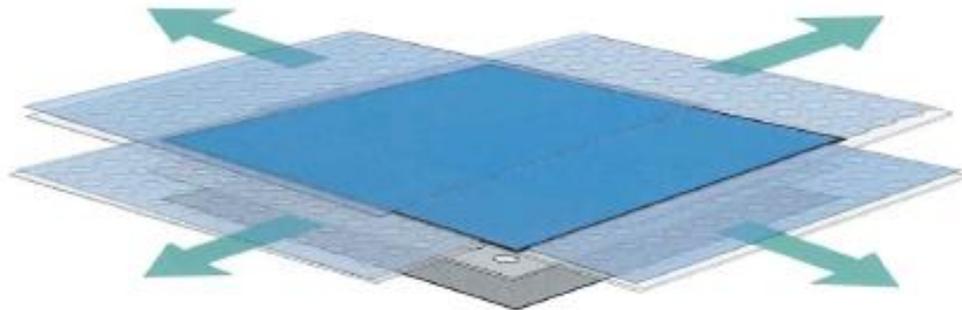
特許マーブルベアリングによる減衰性と復元性の両立により 位置エネルギーの変動を利用して 速やかに元の位置に戻すことを可能にしています。またマーブルと上下プレートの摩擦を利用して 減衰性を実現しています。

アブサーバーは数々の特許と公的認定を取得した産学携の製品です。何度地震が起きても メンテナンスフリーの長寿命です。

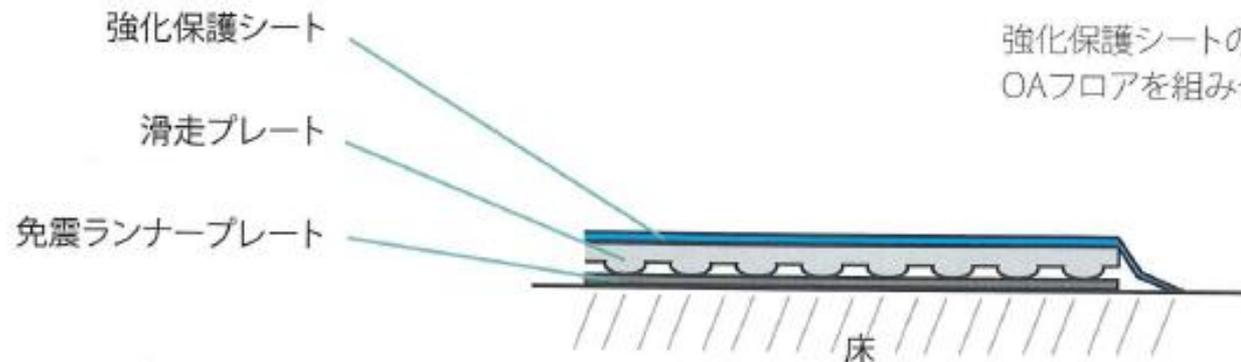
シンプル構造しかも計量(約40Kg)で 誰でも楽々設置可能です。小さな免震台ユニットの組み合わせにより 小型の精密機器から大型の機器まで対応します。

アブフロアー(物置・倉庫・資材置場)

前後、左右、斜めなど、あらゆる方向に可動し、地震時の衝撃を抑え、吸収します。

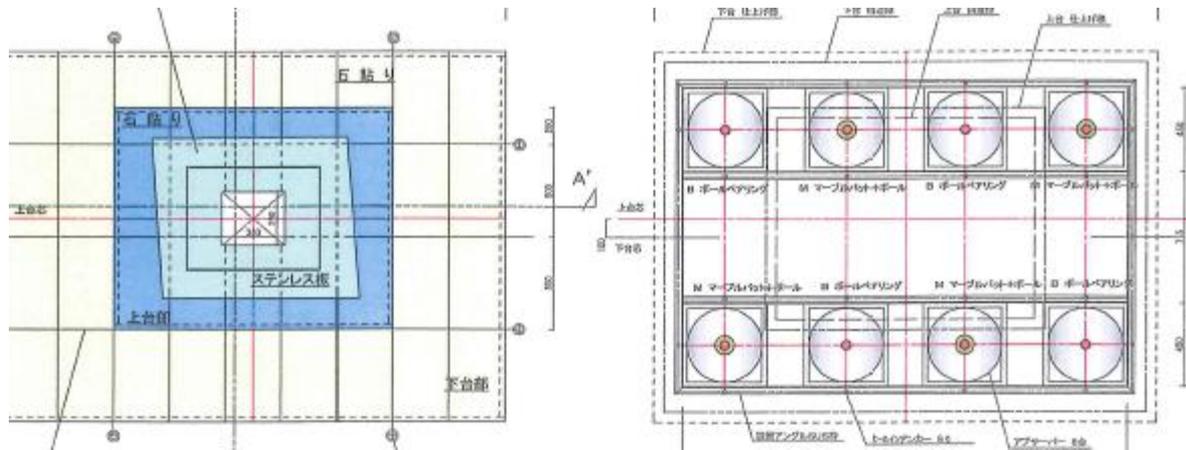


- 設置面積に応じた施工が可能
- 厚さ 5 mm
(フォークリフトの乗り降りも可能)
- 耐圧荷重 20 ton/m²を実現



強化保護シートの上にフローリング及びOAフロアを組み合わせる事が出来ます。

□□□ 博物館の対策



6. 事務所内の(什器・設備・備品) 診断・対策

制震オフィス安全診断報告書

- ◆大地震発生時のオフィス機器の転倒・移動による死傷・破損リスク軽減
(複写機・サーバー・パソコン・ディスプレイ・棚・検査機材等)
- ◆大地震発生時の落下による死傷・破損リスクの軽減
- ◆大地震発生時の避難路の確保
- ◆大地震発生後のBCPを機能させ、早期事業復旧の環境整備

制震オフィス安全診断報告書 内訳

No	場所	対象物	T		SH		K T T O O 2 J		連結	
			現調数量	P換算	現調数量	P換算	現調数量	P換算	現調数量	P換算
1	7 F 事務所	書棚×4		8						3
2	7 F 事務所	キャビネット×3								3
3	7 F 事務所	キャビネット×4		3		2				
4	7 F 事務所	ロッカー×1		2						
5	7 F 事務所	ロッカー×1		2						
6	7 F 事務所	複合機F付×2						4		
7	7 F 事務所	シュレッダー						1		
8	7 F 事務所	ロッカー×4		3		4				



7. 財務(保険)診断

南海トラフ巨大地震と企業経営 報告書

攻めと  守り

コンサル・指導(アドバイス)

目次

◆背景

私たちの生活地域に、近い将来必ず起きる、巨大地震「南海トラフ巨大地震」から企業の生き残りを検討する。

課題1

事業中断時のキャッシュフロー悪化確認 ⇒ 企業再建の費用は……財務処理が出来るか？

課題2

地震被害からの生き残りチェックリスト ⇒ 自社の環境を確認する。

課題3

今後30年の震度5強以上の地震が発生する確率の確認(自社・取引先の確率を確認しよう) ⇒ 自社・取引先のリスク？

課題4

地震に関する保険の詳細確認 ⇒ 財務の確認 緊急時の財務処理が出来るか？

課題5

企業生き残りの為の事業継続計画(BCP)の確認 ⇒ BCP作成済み・BCM

課題6

総合まとめ



優しく迎えよう！自然災害リスク(自社の為・従業員の為・地域社会の為)

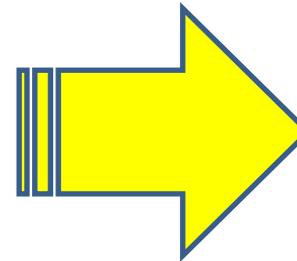
日本列島地震活動期(地震学者談)

阪神・淡路大震災 M:7.3 直下型
(1965年)
経済被害 10兆円

東日本大震災 M:8.4 海溝型
(2011年)
経済被害 17兆円

熊本地震 M:6.5 直下型
(2016年)
経済被害 2.4~4.6兆円

鳥取地震 M:6.6 直下型
(2016年)



南海トラフ
巨大地震
経済被害
220兆円

首都直下
地震
経済被害
112兆円

H28年度
一般会計
96.7兆円